

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 西岡 賢史
所属 (School) 大阪府立大学 工学研究科
学年 (Grade) 修士 1 年
留学先 (Name of overseas institution)
国立中山大學
留学期間 (study abroad period)
2018 年 11 月 11 日～11 月 16 日
記入日 (Date) 2018 年 11 月 16 日

留学レポート Study Abroad Report

※はじめに

私はこのたび MicroTAS(2018/11/11~2018/11/15@台湾高雄市)という国際学会に参加し、ポスター発表を行ってきました。台湾に渡航するのは今回が 2 回目でしたが、高雄市が位置している台南を訪れたことはなく、街の景観や食事、人柄や文化などはまた少し違ったものを感じられました。また、国際学会に参加することも 2 回目ということでもまだまだ経験が浅く、自分の研究内容を英語で正確に伝えることの難しさを痛感しました。そして、学会最終日には国立中山大學の林哲信先生の研究室を見学させていただきました。今回のレポートでは、学会に参加したこと、大学の見学をしたことの二つを報告します。

※学会への参加

私は、MicroTAS2018 (22nd International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences)に参加し、ポスター発表を行いました。この学会は口頭発表とポスター発表の 2 部で構成されていましたが、ポスター発表には 3 日間で約 700 名もの人たちが参加するほど大規模な学会でした。そのため、研究内容が全く異なる学生や先生方も非常に多く参加しており、その方々に自分の研究内容に関して興味を持ってもらうこと、理解してもらうことには苦労しました。しかし、実験結果を動画で示すことや、発表内容を自分が最低限伝えたいことに絞って根気よく伝えることを意識したことで、なんとか理解してもらうことができました。普段はお話する機会さえないようなお偉い方々とも議論できたことは非常に貴重な経験であったと思います。

一方で、自分がポスター発表を聞いて回る際には、自分の研究領域とは異なる分野のお話もたくさん伺うことができました。英語が母国語ではない海外の方々も、当然のように流暢な英語で発表をされており、ここでもまた語学力の低さを認識する結果となりました。しかし、発表者の方々には私が納得するまで繰り返し説明していただき、そのおかげで発表内容を理解できて、自分の知識を広げることができました。

総じて、自分の研究を伝えることのむずかしさを痛感した学会となりましたが、それでも自分の研究を理解してもらえたときの嬉しさを得ることができ、非常に有意義な時間となりました。



※国立中山大學の訪問

国立中山大學機械興機電工程系の Prof. Che-Hsin Lin (林哲信教授)の研究室を見学させていただきました。学会の会場から中山大學の見学を行う間は、許先生の紹介で臺灣海洋大學機械興機電工程學系の黃士豪先生が引率をしてくださりました。国立中山大學の校舎内は下の写真のように、十分な建物の大きさを有しながらも、敷地内に緑が垣間見え、大阪府立大学と似ているように感じました。

まずは、Prof. Che-Hsin Lin (林哲信教授)の居室に通してもらいました。居室は広いというわけではありませんでした。必要最低限のもので整頓されていました。実験室は3つ所有しており、実験をする部屋が二つとクリーンルームが一つでした。初めに、居室の奥にある実験室を見せていただきました。部屋の広さは私の所属している研究室の実験室と同じ大きさか、それよりも小さいくらいでした。しかし、実験装置が隙間なく設置されており、熱心に実験をされている学生さんもいて、普段から熱意をもって研究に取り組まれているのが見て取れました。

次に、クリーンルームを案内していただきました。独自に所有しているクリーンルームであったため、府大のクリーンルームに比べると、はるかに小さかったですが、それでも一つの研究室がクリーンルームを維持するのはすごいことであると感じました。

最後に、もう一つの実験室を案内していただきました。そこは、初めの実験室よりもさらに小さかったのですが、そこにも装置がたくさん置かれていました。一つひとつの装置がそれぞれ異なる用途として存在しており、重複することなく設置されていたため無駄がなく、限られた空間を効率的に使用していると感じられました。

研究室見学の説明は主に林教授が行ってくれましたが、学生の方も自分なりに説明を付け加えてようとする場面が多く見られ、積極的に意見を主張する姿勢や、自分の研究を理解してもらおうとする思いは私も見習わなければならないと感じました。

研究室と実験室の見学を終えた後には、図書館や資料館、学校創設者の銅像など学内の主要な施設を見学していただきました。図書館では熱心に勉強している学生や、フリースペースでプロジェクターを使用してディスカッションしている学生など様々でしたが、勉強に対する意識の高さは日本の大学よりも十分に感じるように感じられ、素晴らしいことであると思いました。自分自身も負けてられないと思うようになり、良い刺激になりました。

※さいごに

今回の学術交流は国際学会が4日間、大学訪問が1日間と長期間でありましたが、毎日の経験がどれも普段の生活では味わうことのできない新鮮なもので、あっという間に過ぎたという印象でした。学会では、自分の研究が世界の研究においてどの位置づけなのかということを経験することができ、論文を読むこととは異なる経験ができました。大学訪問では、実際に大学の雰囲気や実験の様子などを見させていただいたことで、研究に対する姿勢を肌で感じることができました。

今後もこのような機会があればぜひ参加させていただきたく思いますし、大阪府立大学の皆さんにもぜひチャレンジして欲しいと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えていただいた関係者の皆様と国際学会 Plus 奨励金制度に深く感謝いたします。ありがとうございました。

